南湖における電気ショッカーボートによるオオクチバス捕獲状況と食性

臼杵 崇広・吉岡 剛（水産課）・礒田 能年（水産課）

１．目　的

電気ショッカーボートを用いた駆除事業の実施により、琵琶湖南湖の各水域におけるオオクチバスの生息状況が今後どのように変化していくか把握するため、南湖７区間においてオオクチバスの捕獲状況を調査した。

２．方　法

調査は電気ショッカーボートによる駆除事業が実施された平成 24 年 6 月 1 日から 7 月 4 日のうち 6 日間行い、事業で捕獲されたオオクチバスを標本とした。調査区間として南湖西部水域 6 区間および南湖東部水域 1 区間を設定した（図 1）。区間ごとにオオクチバスの体長組成（Ｅを除く）、通電時間あたりの捕獲量および GSI（生殖腺重量/体重×100）を、一部区間で胃内容物を調査した。

３．結　果

西部水域の区間ＡからＣでは大型個体の割合が高く、それより北側の区間Ｄ、Ｆおよび東部水域では１歳魚と思われる小型個体の割合が高かった（図 1）。

通電時間あたりのオオクチバス捕獲量は区間Ａで 131.2kg/時間と最も多く、区間Ｆでは 62.4kg/時間、東部水域では 58.9kg/時間と少なかった。

体長 20cm 以上のオオクチバスにおける餌料重要度指数（(被食個体数比＋被食重量比)×被食頻度）の百分率は区間Ｂおよび東部水域ではブルーギルの割合がそれぞれ 84.8%、60.7%と高かった。これに対して、西部水域の最も北側の区間Ｆではアユが 38.7%、ブルーギルが 38.1%とほぼ同様の値となった(図 2)。

各区間における体長 20cm 以上のメスの GSI 平均値は 1.0 から 2.7 であった。南湖ではこの時期には産卵は終盤に向かっており、より効果的な駆除事業の実施には４月からの電気ショッカーボートの運用が望まれる。

来年度の電気ショッカーボートによる駆除事業は 4 月開始予定であり、効果把握のため、今後経年的に南湖における捕獲状況を調査していく必要がある。

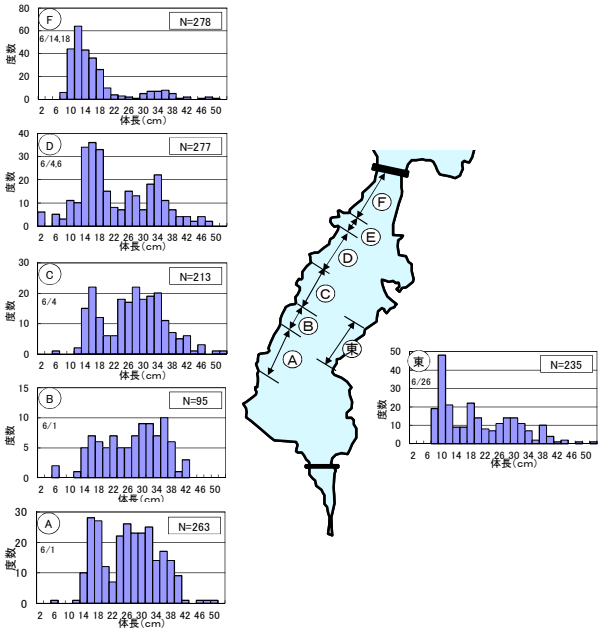

図１　琵琶湖南湖の調査区間および各区間で捕獲されたオオクチバスの体長組成.

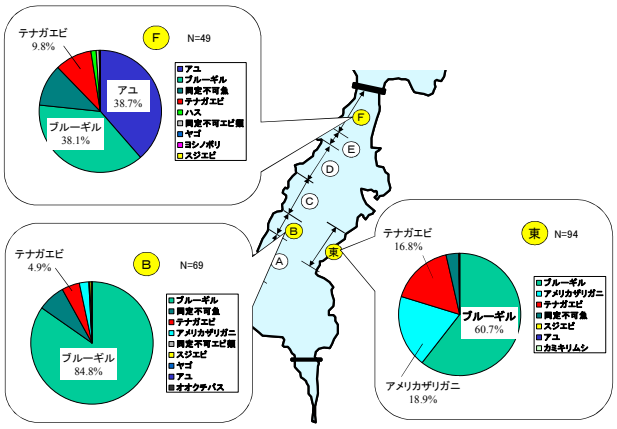

図２　各区間で捕獲されたオオクチバスの餌料重要度指数の百分率.